

まちの話題



LeRIROの選手が小学校で特別授業

LeRIRO 福岡の選手が、市内各小学校でタグラグビー教室と「夢」や「しごと」について話す授業（うきは市スポーツ事業実行委員会主催・うきは市教育委員会共催）を実施しました。

子どもたちは、普段身近に接することのない LeRIRO（ルリーロ）の選手とタグラグビーでたくさん体を動かしました。

また、夢に向かって笑顔を絶やさず努力することの大切さを熱く語る選手から、何かを精一杯頑張ることは、確実に自分の成長につながるということ、授業を通して楽しく学んだようでした。



トラック協会より横断旗を寄贈

3月22日、福岡県トラック協会筑後支部の稲富靖史さん（写真左）、高尾勇二さん（写真右）から市内小・中学校（7校）に横断旗46本を寄贈いただき、学校を代表して樋口教育長が受け取りました。

寄贈いただいたお二人からは「横断旗が子ども達の安全のために少しでも役に立てば嬉しいです」と語っていただきました。

横断旗は、子ども達の登下校時に、先生や交通指導員の方に活用していただいています。



「うきは市の未来について考える」

～総合的な学習の時間を活用した主権者教育の取り組み～

3月1日、浮羽中学校2年生の総合的な学習の時間において、福岡県選挙管理委員会協力のもと「シミュレーション2040」*が行われました。実施に向けた事前学習の中で、2月5日には市議会議員や市職員をゲストティーチャーとして招き、対話形式の学習を設けました。

当日は、選挙出前授業後に「シミュレーション2040」を体験し、グループごとにどのようなまちを作ったのか発表を行いました。また、実際の投票機材を使用して、どのグループのまちがよかったのか投票を行いました。

*「シミュレーション2040」は、熊本県職員が開発したものを、中高生でも実施できるよう福岡県選挙管理委員会が独自に改良を重ねた自治体経営カードゲームです。有権者の方が政治・選挙に関心を持つきっかけとなり、架空のまちをモチーフに、対話による政策決定や模擬選挙等のまちづくりを疑似体験する選挙啓発（主権者教育）の取り組みとなっています。参加者は架空の市の課長となり、災害の発生や社会保障費の増加などに対応しながら、理想のまちをつくるため、グループメンバーと2040年度までの政策を議論し判断していく形式で行います。